

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104617		
法人名	有限会社 東雲		
事業所名	有限会社 東雲 グループホームつつじが丘しのため		
所在地	長崎市つつじが丘4丁目15番1号		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成27年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成26年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅地の中にあり、利用者の立場になって考え、地域の中で安心して楽しい生活ができるように努力します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道からすぐの住宅地に立地している。事業所は利用者の尊厳を大切にし、家庭的な雰囲気の中でその人らしく生活が出来るようにという理念を掲げている。職員は、利用者に対する気づきメモを3ヶ月に1度提出し、職員全員で共有することで利用者への理解を深めたり、利用者や家族から要望や希望を要望ノートに書いてもらい意向に沿うようにするなどの工夫を行い、日々の支援に活かしている。また、利用者には食事の下準備や洗濯物たたみなど、それぞれの力に合わせてできることをしてもらい、家庭的な営みの中で生活できるよう支援している。更に、支援の中心は見守りであり、利用者の転倒が少ない理由も見守りが行き届いているからであると考えられる。このように、管理者や職員が利用者一人ひとりのことをきちんと理解し、本人本位の支援を行っている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、毎朝理念を申し送り時に唱和し日々の介護の中で確認しあい、入居者の思いに添えるよう努力するとともに、地域に密着した介護の実践に取り組んでいる。	代表者が作成した理念は、利用者の立場に立って接し、尊厳を大切にすることを意味しており、怪我をさせない事を目標に支援している。毎朝の理念の唱和とともに管理者と職員は確認し合い、共有して支援に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に属しゴミ捨て場の清掃、緑地帯の木々の剪定を行っている。町内の保育園夏祭りへの参加したり、近所に買い物に出かけたり、隣の住人も窓ごしに朝のラジオ体操に参加することがある。	町内会に加入し地域の情報等を収集している。事業所として、近隣のゴミ捨て場の清掃や駐車場の木々の剪定、町内の保育園の夏祭りに参加するなどの交流を行っている。また、近隣に住む独り住まいの高齢者の安否確認や隣人の窓越しのラジオ体操参加など日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に理解すること、支援の方法について話す機会があるが、それが実際活かされているのかは分からない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの生活や事故報告などを行いサービスの向上に活かすように努めている。	運営推進会議は、地域、行政、事業所等のメンバーにより2ヶ月に1度開催している。利用者概要および活動報告、各委員からの助言等が行われている。ただし、メンバーによる意見交換や提案が少なく、現在のところ、そこでの意見がサービス向上にあまり活かされていない。	会議では各種報告が中心の内容となっているため、運営推進会議の目的の一つでもある運営の見直しや改善についての活発な意見交換が行われ、会議での意見がサービス向上に活かされることを期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談員の受け入れたことがある。、成年後見人制度の利用、行政主催の研修会への参加。分からないことを質問している。	行政とは、日常的に介護に関する質問や届出を行うなど日頃から連絡を取っている。また、行政主催の研修参加や認知症サポーター研修の受講など積極的に参加しており、行政との協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。	拘束については、年に2回内部研修を行い、言葉による拘束など情報を共有している。また、玄関の施錠は夜間のみであり、利用者が外へ出た場合は職員が寄り添い見守ることで支援している。ベッド柵が必要な利用者には床にマットを敷き対応するなど拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を受講しその内容を会議で報告して情報を共有し防止に努めている。また、さりげない言葉で利用者をきづつけることがないように努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用する時に職員と必要性について話し合った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に説明し、その場または後日質問に答え、理解、納得してもらえるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の時などに話を聞くよう努めている。	利用者、家族からの意見は「苦情・要望ノート」に記録し、職員で共有している。家族が面会時に意見を直接言えるような、雰囲気作りを心がけている。事業所として意見に対して統一した対応を図る為、窓口を一つにしており、代表者から直接、本人・家族に説明を行い、結果報告を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者も管理者も同じフロアで同じ業務を行っており職員の意見を業務に反映できるよう努めている。	代表者も職員と同じ業務を行っている為、普段から意見の言いやすい環境である。特に月に1度の職員全体会議では、全員が必ず発言できるよう進行している。実際にゴミ袋の大きさを変更する等、職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	26年4月に賃上げを行い、最長で5日間のリフレッシュ休暇を与えている。コミュニケーションを取るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、外部研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が他事業者とコミュニケーションをとっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報収集に努め入居後の生活に安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム側から家族に話しかけ、家族と話しやすい雰囲気を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の本人、家族との面会の際に見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の知恵を借り調理や他の家事に活かしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ランタン祭りに来て頂いたり、美容院に連れて行って頂くなど関係を維持するよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や行きつけの美容院などへお連れした、り年賀状を出すなどして関係がとぎれないよう支援に努めている。	利用者の生活歴は家族に聞いたり、日頃の支援中に利用者から聞いて把握している。利用者の馴染みの美容室や商店に出掛ける支援に努め、かかりつけ医受診時には地元の知り合いと会話が弾んでいる。家族への手紙や電話、教え子や兄弟の訪問等もあり、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員も務めているが、自然と利用者同士の人間関係が構築されていく。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの悩み事を相談したり、お墓参り、家族の方がタオルの差し入れをしてくれたり関係を維持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中、(言葉や態度、表情)で本人の思いをつかめるよう努め、思いにそえるよう努めている。	職員は利用者と1対1になった際に思いを聞いたり、発語困難な場合も表情から思いを汲み取り、意向を把握している。若い頃に発病した利用者について、今まで経験できなかった事を体験できるよう、美術館や博物館の展示会や喫茶店に出掛けるなど、1人1人にあわせ本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族が利用者の詳しい生活歴を把握していることは少ない。入居後の情報収集にも努め生活の援助に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方を観察し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、医師、時には本人を含め話しを聞き、それを元に職員間で話し合い計画作成をしている。	開始前に利用者、家族から生活歴を聞き、暫定プランを作っている。その後短期3ヶ月長期6ヶ月の計画を作成し、3ヶ月に1度モニタリングを行っている。利用者1人1人に対して全職員が気づきメモを作り、アイデアを出す等、必要関係者の意見を反映した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望に応じコンサートなどに出かける計画をたてるが利用者のADL、認知症、健康状態の重度化で以前よりは難しくなっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の美容院の利用、スーパーでの買い物などの支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にホームの協力医療機関の医師に主治医を変えてもらっている。かかりつけ医を継続する場合は、家族に通院をお願いしている。情報交換は、密に行っている。	ほとんどの利用者が協力医療機関からの紹介による利用開始であるため、24時間対応で週に1度の往診がある協力医療機関がかかりつけ医となっている。なお、歯科などかかりつけ医を継続する場合は、家族が通院に付き添い、受診結果の報告を得て連携を取るよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と密な情報交換ができるよう頻回に利用者を見舞っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時、家族、医師と話し合い希望にそえるよう努めている。	終末期のあり方については、利用開始時に本人・家族に指針を説明し、同意を得ている。これまでに終末期を迎えた利用者はいないが、医療機関との連携は医師に確認を取っている。ただし、職員への指針の周知や終末期対応の研修などは行われていない。	今後、終末期を迎える利用者が出てくる可能性があるため、職員への指針の周知と終末期における研修を実施し、いざという時に対応が出来るよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを掲示している。実際急変時に対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	長崎市の指導どおり月に1回避難訓練をおこなっている。また、警備会社に警備を依頼している。	火災における避難訓練は2回の夜間想定を含み毎月実施されている。隣接する住民には訓練実施の案内を行い、訓練に参加する住民もいる。また、備蓄品は水や缶詰など3日分が準備されている。ただし、火災以外の災害に対応する避難訓練は現在のところ実施されていない。	事業所の立地上、台風や地震などの災害が想定され、火災以外の災害が突然起こりうる可能性がある。そのため、一人でも多くの利用者が安全に避難できるよう想定される災害の避難訓練を実施することが望まれる。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への入室の時は、ノックをするか声をかける、また相手の立場になって考えるなどして誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	トイレ誘導時には、トイレという言葉を使用せず小声で伝えるなど、誇りを損ねないよう対応している。また、利用者個人の情報は鍵のかかる場所に保管し、職員の守秘義務は誓約書で担保するなどプライバシー確保に努めている。ただし、居室扉の小窓から居室の中が全て見える状態となっている。	利用者居室への入室時にはノックをするなどの配慮があるが、居室扉の小窓から中が見えており、プライバシーの確保が難しいため目隠しをするなどの対応が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己主張をしない利用者の態度、行動、表情から思いをくみ取るよう努め、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間など決めてはいるが無理強いはずせずその人の生活時間、やりたいことに合わせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後に着る服を職員と選んだり、職員が利用者の髪をとかしたりして支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作成時利用者の希望を聞き、いなりずしを作ったり楽しんでいる。	利用者の希望を聞きメニューに反映している。買い出しや米とぎなどの下準備の手伝いも多く利用者の楽しみとなっている。誕生日等には行事食を提供し、弁当を作って出掛ける花見などでの外食もある。また、利用者の嚥下能力に合わせ、ミキサー食等で対応し、楽しく食事できるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を摂ろうとしない利用者に声をかけ自力で食べるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	みがき忘れがないよう利用者がみがいた後に職員が仕上げをし、自立している利用者には義歯を外して洗うように援助している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔や尿、便の量を把握し自立へ向けた支援を行っている。	おむつの利用者もいるが、自立に向けパッドの大きさ等も工夫している。重度化が進行し尿意、便意のない利用者も増える中、職員はチェック表や表情から誘導を行っている。利用者によっては誘導の回数が多く疲れる時もある為、本人のペースにあわせて、最善の方法で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動を行い、さつまいも、自家製ヨーグルトを摂取していただき、必要に応じ下剤を服用してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否の激しい利用者が入浴するよう雰囲気作りに苦労している。	入浴日は月水金で午前、午後と好きな時間に入浴している。リフト浴も完備しており、入浴前にシャワーで浴室全体を暖める等、快適な入浴ができるよう支援している。入浴を拒む場合は、肩マッサージ後に誘導したり、言葉掛けを工夫して浴室まで連れて行ったりと、個々に沿って支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない程度に居室、フロアで休息できるようにまた、室温に気を付けて窓の開閉、布団の着せ方を調整し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師より職員へ薬の効能などについて説明し理解させるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭いじりが好きな利用者には庭いじりを、絵を描くこと好きな利用者には絵を描いていたなど支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援している。	リフト車があり車椅子の利用者も外出している。2、3人ずつに分かれて、ドライブや買い物に行ったり、墓参りや選挙等にも行っている。日常的には気候のよい季節は毎日のように、近所への散歩や庭いじりをして日光浴を楽しみ、外気に触れて気分転換を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	防犯のため原則、金銭をあずかっていないが、紛失してもホームに責任がないとの条件で入所者が少額の金銭を持っている。買い物で金銭を使う場合は、援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花を飾り、浴室には「湯」ののれんをかけ、吹き抜けから太陽光を取り入れて居心地よく過ごせるように工夫している。	リビングは吹き抜けで明るく日中は利用者全員が集まり、毎日10時からレクリエーションも行われ笑い声が聞こえてくる。浴室や洗濯場の洗剤は鍵のかかる棚に収納し、誤飲を防ぐよう工夫している。台所からは調理をする音や料理の匂いが漂い、家庭のような雰囲気の共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるように席の配置など気を付けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れたものや大切な物を持ってきてもらい居心地良く過ごせるように努めている。	寝具は本人の持ち込みであり、馴染みの写真や小物も飾っている。フローリングと畳の部屋があり、担当職員が利用者の使い勝手を考え、ベッドや家具の位置を変える等、個々に合わせて工夫している。居室は毎日午前中に清掃し、年末には普段できないような押し入れや家具の下等も行い、快適な環境を提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアやトイレに手すりを取り付け、居室のベッドの位置を工夫して安全かつ自立した生活ができるように工夫している。		